

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 22 日現在

機関番号：33704

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25501024

研究課題名(和文) 知的障害・発達障害のある人を対象としたホスピタリティー旅行に関する研究

研究課題名(英文) Study on the hospitality travel intended for people with intellectual disabilities, developmental disorders

研究代表者

松本 和久 (MATSUMOTO, Kazuhisa)

岐阜聖徳学園大学・教育学部・准教授

研究者番号：40635348

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)： 知的障害・発達障害のある人は、苦手なことに出くわしたり不安になったりすると、混乱してしまう。また、自分の気持ちを伝えるなどのコミュニケーションを苦手とする人が多い。

知的障害・発達障害のある人が旅行する際に、こうした「バリア」を解消するためには、事前に情報を伝える、個室や専用スペースを準備する、不安を取り除いておく、支援者などの人的体制をとる、といった「安心の担保」が必要になる。

研究成果の概要(英文)： When a person with intellectual disabilities, developmental disabilities has been faced with a weak situation, they feel strong anxiety. And many of them is not good at communication with other people. In order to solve these problems, we need to prepare that they can comfortably participate in.

Tell in advance the necessary information. To prepare a private room and a private space. To remove the anxiety. To prepare the human system, such as a support person.

研究分野：特別支援教育

キーワード：知的障害・発達障害 旅行 配慮 安心

1. 研究開始当初の背景

2006年12月、第61回国際連合総会において「障害者の権利に関する条約」が採択され、日本政府は2007年9月に署名した上で、その批准に向けて2009年12月には内閣に「障がい者制度改革推進本部」を設置し、「障がい者制度改革推進会議」を開催してきた。2012年9月には「障害者政策委員会 差別禁止部会」が「『障害を理由とする差別の禁止に関する法制』についての差別禁止部会の意見」をまとめ、その中で

- ・バリアフリー基準はハード面に焦点があり、バリアフリー基準を満たしている場合であっても、個別的接遇においては不均等待遇といった事例が起こり得ること。
- ・一般的なバリアフリー基準が障害の多様性や個別の状況に沿った合理的配慮を満たすとは必ずしもいえないこと。

といった問題点を指摘している。た。

障害のある人の旅行支援については、「バリアフリー旅行」として身体障害のある人や車いす使用者を対象とした旅行支援の取組は増えてきているが、知的障害・発達障害のある人が旅行する際の支援内容や支援方法に関する研究はほとんど見られない。

障害のある人が旅行する際に必要な支援の基礎的資料として、障害のある子どもの保護者を対象とした調査を実施した(松本, 2012)。その結果、知的障害・発達障害のある人やその保護者は旅行に出かけたいと思っはいるものの、声を出したりパニックになったりして周囲に迷惑をかけてしまうことや、トイレの心配などの不安が先に立ち、気軽に出かけられずにいることが明らかになった。このように、知的障害・発達障害のある人にとって、「旅行」は依然として敷居が高く、「外出やお出かけ」といった域を抜け切れないのが現実である。また、知的障害、発達障害のある人は運転免許の取得が難しく、電車やバスを利用して自分の好きなところへ行けるということは、自立と社会参加に向けた大きな力となる。また、電車やバスに乗って出かけることが好きな知的障害・発達障害のある人も多く、旅行は余暇の充実という点でも大きな意味をもつ。

2. 研究の目的

上記のような背景を踏まえ、本研究では(1)知的障害・発達障害のある人にとって必要な支援を盛り込んだ旅行を企画・実施し、適切な支援内容、支援方法について検証する。(2)知的障害・発達障害のある人が旅行する際に必要な支援内容、支援方法を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

知的障害・発達障害のある人にとって必要と思われる支援を盛り込んだ以下の(1)~(3)の旅行を企画・実施し、支援の有効性に

ついて参加者に調査した。

また、(4)の映画上映会の取組を通して、障害のある子どもの余暇支援における具体的な配慮事項について検討した。

(1)2014年世界自閉症啓発デー・発達障害啓発週間関連イベント「“ぼくらのA列車”に乗ろう」

静岡県発達障害者支援センターの協力で、世界自閉症啓発デー(4月2日)と発達障害啓発週間(4月2日~8日)に合わせ、2014年4月5日、自閉症・発達障害のある人を対象にした貸切車両を天竜浜名湖鉄道の掛川~天竜二俣間で運行した。このイベントには13組29名(本人14名、同伴者15名)のうち、兄弟2名)と支援ボランティア23名が参加し、沿線の風景を楽しんだり天竜二俣駅で転車台や鉄道資料館を見学したりした。

(2)特定非営利活動法人「で・ら・しえん」主催による「そば打ち体験に行こう！」

2014年12月7日、「で・ら・しえん」に所属する23名とヘルパー、サポーター21名が参加し、そば打ち体験と近隣の観光施設の見学・買い物をする日帰りバスツアーを実施した。

(3)静岡県自閉症協会静岡支部「川根温泉とSLツアー」

静岡県自閉症協会静岡支部から「公共交通機関を利用して、日帰り旅行に出かけたい。」との依頼を受け、2016年11月22日に本人7名、家族11名、ボランティア11名が参加し、大井川鐵道のSL急行乗車と日帰り温泉施設での昼食を組み込んだ日帰りツアーを実施した。

(4)任意団体ハッピー・クローバー主催による障害のある子どもとその家族を対象とした映画上映会

「暗いところが苦手」「いつ会場から出ていってしまうか不安」「大声をあげたりしないか心配」といった不安や心配から、なかなか映画館デビューができない子どもたちがいる。そこで、参加する子どもも保護者も安心して映画を楽しめるような工夫や配慮をした映画上映会を、2014年10月から2015年9月までに4回実施した。

4. 研究成果

(1)知的障害・発達障害のある人が旅行する際の「バリア」

知的障害・発達障害のある人は、苦手なことに出くわしたり不安になったりすると、混乱してしまう。例えば、声を出したり、その場から離れなかったり、じっとしていられたらったりする。こうした不安や混乱を引き起こす環境が、最も大きな「バリア」と言える。

また、自分の気持ちを伝えるなどのコミュニケーションを苦手とする人が多い。相手の

状況にかかわらず話しかけたり、自分の興味のあることを一方的に話し続けたりすることがある。

こうした「バリア」とそれを解消するための手段は、以下ようになる。

- ・話や文章の内容を理解すること
絵や写真などがあると、分かりやすい。
- ・初めて行く場所や初めて会う人、いつもと違うことや急な予定変更
あらかじめ予告があって、見通しがもてると安心できる。
- ・大きな音や騒がしい場所
静かに過ごせる場所があると、安心できる。

(2) 知的障害・発達障害のある人が旅行する際の配慮事項

当日の見通しをもてるように、写真入り行程表の作成が望まれる。また、具体的に以下のような配慮が考えられる。

参加者目線での実態に合った写真

本人が見るであろう角度や状況の写真が効果的である。下見の際に、実際に乗る電車と混雑状況を撮影しておくことよい。いわゆるイメージ写真は逆効果となる。

当日の支援者の紹介（顔写真）

添乗員や旅行ヘルパーなど、当日顔を合わせる人たちの顔を知っておくことで安心が得られる。事前に顔合わせをしたり電話で話をしたりできれば、より安心できる。

余裕のある行程と、そのための工夫

歩き、食事、トイレなど本人のペースで行えるように、まずは時間がかかる人のペースで行程を組む。特にトイレは焦らせないために、トイレのある車輦に乗るなどの工夫が必要となる。逆に行動が早く、待つことも苦手な人に対しては、待ち時間を持って余さないように好きなゲームや本を持参することも効果的である。

下車駅だけでなく、途中の駅名も記載

「今、何番目の駅」「降りる駅まであといくつ」と、見通しをもつことができる。反面、情報過多になる可能性もあるので、行程が長い場合には主な駅のみを記載することもできる。

安心できるスペースの確保

周囲に気兼ねなく過ごすことのできるスペースとして、個室や貸切車両などの専用スペースや隅の一角などを確保する。気持ちが不安定になった際、声を出したり、飛び跳ねたり、飛び出したり行動をすることもできるので、その際に落ち着きを取り戻すことができるように、車内の一部をカーテンで仕切って「カームダウンエリア（気持ちを落ち着ける場所）」を設置しておくことより安心できる。

選べる食事

いつもの食材、いつもの食器、いつもの食べ方でないとダメという「こだわり」のある人もいる。これらはわがままではないので、みんな一緒のメニューではなく、本人の特性

や嗜好に合わせて、食事内容やレストランを選ぶことができることよい。

指定席の場合、座席の配慮

小さい子の声や泣き声が苦手だったり、逆に声を出してしまったりする人もいる。事前にこうした特性を尋ね、あらかじめ座席を離して設定することで、旅行中、お互いにつらい思いをすることを避けられる。

理解者の同行

添乗員やリーダーの他に支援者やボランティアが同行して、場合によっては別行動の対応をとることができるようにしたい。

(3) 障害のある子どもとその家族が安心して映画を楽しむための工夫や配慮

毎回劇場を一つ貸し切って上映した。一般の映画館では実施されていないが、知的障害や発達障害のある参加者にとっては以下のような工夫や配慮が不可欠であると考えた。参加者への調査の結果、これらの工夫や配慮はどれも有効であった。

事前申込・座席指定

当日、せっかく来場してもらったのに満席で断ることのないように、事前申込制とした。また事前申込の際に苦手なことや配慮事項を尋ね、座席指定の参考にした。例えば、黙って映画を観ることが難しく、声を出してしまう参加者がいる。一方、そうした声に反応して落ち着かなくなる参加者もいる。このような場合はあらかじめ座席を離し、お互いが接触する機会を極力減らすようにした。

照明や音量の調節

真っ暗な場所や大きな音が苦手な参加者は多い。その不安を少しでも軽減できるように、上映中真っ暗にならないよう照明を少し残した。また、音量を抑えめにした。これらは上映前のリハーサルで担当スタッフがチェックし、要望を映画館に細かく伝え、それに応えてもらった。特に、爆発音などの急に大きな音が出る場面をあらかじめ映画館の方から教えていただき、その場面の音を実際に聞いて最適な音量を入念に確認した。

上映中の出入り

長時間じっと座っていることが難しかったり、途中でトイレに行きたくなったりする参加者もいる。そこで、上映中の出入りは自由とした。また、劇場入口に椅子を置いて休むことができるようにした。

(4) 知的障害・発達障害のある人の旅行プランのポイント

知的障害・発達障害のある人の旅行に必要な最大の支援は、以下のような「安心の担保」であることが明らかになった。

安心を伝える（安心が分かる）

事前情報（顔合わせなど）や見通し情報（行程表など）を伝える。伝え方は、言葉よりも実際の写真や実物を提示することが効果的である。

安心を確保する（安心できる場がある）

あらかじめ個室や貸切車両の専用スペース、隅の一角などのスペースを確保する。また、突然本人の気持ちが不安定になった際に、落ち着きを取り戻すことができるスペースを確保する。

不安を取り除いておく

旅行申込の際に本人の特性、特に好き嫌いや苦手なことを尋ね、あらかじめ不安を取り除くことができるように座席などを配慮する。また、本人のペースを乱さなくても済むように、余裕ある行程にするとともに多目的トイレなど必要施設の有無を事前に確認しておく。

別行動への対応

本人がその場から動かない、予定の列車に乗れそうにないという事態の際、その本人とツアー本隊とが別行動できる人的体制（支援者など）をとることができるようにしたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

松本和久・篠田通江, 障害のある子どもの「映画館デビュー」を支援する試み - 障害のある子どもとその家族が安心して参加できる映画上映会「すてっぷすてっぷ」-, 査読有, 岐阜聖徳学園大学教育実践科学研究センター紀要, 15, 2015, 135-142.

松本和久, 知的障害のある人の「当事者主体」を大切にしたい日帰り旅行 - 特定非営利法人「で・ら・しえん」主催による「そば打ち体験に行こう!」の取組 -, 査読無, 岐阜大学教育学部特別支援教育センター年報, 22, 2015, 47-55.

松本和久・山内達仁, 知的障害・発達障害のある人が旅行する際に必要な支援, 中部大学現代教育学部紀要, 査読有, 7, 2015, 73-83.

〔学会発表〕(計5件)

松本和久・篠田通江, 障害のある子どもの「映画館デビュー」を支援する試み~障害のある子どもとその家族が安心して参加できる映画上映会の実施~, 日本特殊教育学会 53 回大会, 2015 年 9 月 20 日, 東北大学(宮城県仙台市).

松本和久・山内達仁, 知的障害・発達障害のある人の映画館と旅行における配慮, 第 5 回バリアフリー観光全国フォーラム沖縄大会, 2015 年 6 月 19 日, 牧志駅前ほしぞら公民館(沖縄県那覇市).

松本和久・山内達仁, 自閉症・発達障害のある人が旅行する際に必要な支援 - 2014 年世界自閉症啓発デー・発達障害啓発週間関連イベント「ぼくらの A 列車」に乗ろう!」の取組 -, 日本特殊教育学会 52 回大会, 2014 年 9 月 22 日, 高知大学(高知県高知市).

松本和久, 障害のある人が旅行する際に必要な支援, 第 4 回バリアフリー観光全国フォーラム旭川大会, 2014 年 6 月 27 日, 旭

川トーヨーホテル(北海道旭川市).
松本和久, 障害のある人が旅行する際に提供されている支援の実態, 日本障害理解学会 2013 年大会, 2013 年 12 月 7 日, 筑波大学(茨城県つくば市).

〔その他〕

・リーフレット『知的障がい・発達障がいのある人が安心して旅行に出かけられるように』

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松本 和久 (MATSUMOTO, Kazuhisa)
岐阜聖徳学園大学・教育学部・准教授
研究者番号: 40635068

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

山内 達仁 (YAMAUCHI, Tatsuhiro)
篠田 通江 (Shinoda, Michie)
篠田 秀樹 (Shinoda, Hideki)